

倉庫敷地	2 500.00
倉庫	12 300.00
事務所社宅その他	7 700.00
工事用電力設備	80 000.00
試験室及び機器	4 200.00
小計	185 820.00

工 事 機 械

混合機	21 切, 3 臺	25 000.00	ウォークリーター 2 臺分
エレベーター	250 尺, 2 基	27 500.00	捲揚機共
クラッシャー	3 臺	19 000.00	24' × 15'
クラッシング・ロール	4 臺	25 000.00	フレーム 2 個豫備
トロンメル	4 臺	4 000.00	
ボーリング機械	1 臺	4 700.00	利根式
コンクリート・コア採取機	1 臺	1 750.00	ヤマト式
ガソリン・エンジン	7 ton 2 臺, 6 ton 3 臺	31 020.00	
ダンプ・カー	30 臺	15 420.00	4 ton 積
軌條	7 哩	31 350.00	25 lbs.
その他		15 100.00	
小計		199 840.00	
測量及び監督費		49 500.00	昭和 8 年 4 月より 昭和 9 年 11 月まで
動力費		110 000.00	1 KW 當り 2 錢と假定
合計		2 630 000.00	

4. 工事執行者 廣島電気株式會社
5. 計畫設計者 赤松三郎
6. 工事監督者 空閑徳平
7. 施工方法 単價請負にして請負者は 株式會社間組 (主任 村上 優)
8. 起工年月 昭和 8 年 4 月
9. 竣工豫定年月 昭和 9 年 11 月

但し堰堤コンクリート施工は昭和 8 年 9 月 21 日試験的に開始したが本式の施工は 10 月下旬よりして本年 9 月末貯水開始の豫定である。

世界動力會議大堰堤國際委員會 日本國內委員會近況

(本文に就ては會員工學博士神原信一郎君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

第 2 回國際大堰堤會議に上程せらるべき研究論題に付き在巴里なる常設事務局より次の如き通牒があつた。

“1936年に開催豫定の第2回大堰堤會議の論題決定に關し茲に貴國內委員會の注意を促す次第である。本論題は實際上本年度執行委員會に於て決定せらるべきものである。(中略)常設事務局は第1回大堰堤會議中或はその後提出せられた提案並に希望を、第1回會議に取扱はれた問題に關するもの及びそれ以外の新規問題に關するものにと依つて2大別して附録に記載し、茲に貴國內委員會の想起を求め通知する次第である。従つて貴國內委員會に於てはこれ等諸問題の有すると思はれる重要性に就き第2回會議日程に上程せらるべきものとしての見地より検討され、且上記以外に上程するを必要と思考せらるゝ問題をも研究され度い。來るべき執行委員會に於て本問題に關しての討論を進捗せしむる見地より、貴國內委員會の意見決定次第第2回會議論題に選定を希望せらるゝ問題をその重要性の順序に分類して表に作製して送附せられ度い。

附 録

(1) 第1回會議に取扱はれた問題に關聯せる提案

- 石工或はコンクリート堰堤上流面の防水工問題 (問題 1-a)
- 堰堤築造用特殊セメント問題 (問題 1-a 及び 1-b)
- 各種材料土を土堰堤築造に實際適用する可能性の研究 (問題 2-a)
- 堰堤及び基礎地盤内の滲透水の巡行、即ち堰堤内を通過する水の飽和線及び水壺の決定に關して現存堰堤に就き行つた観測結果の報告 (問題 2-b ル・ルー氏提案)

(2) 新規提案

- 基礎地盤の地質工學的研究 (第1回會議希望)
- 堰堤内の漏水孔の生成を防止すべき最良方法如何 (レーボツク氏提案)
- 土堰堤の安定度算定 (第1回會議希望)

日本國內委員會提案

因に日本國內委員會提案の3論題は下の如し。

- (1) 既設大堰堤の安全状態を推定する爲めの探査方法
- (2) 漏水による土堰堤の危険を防止する爲め堤體及び基礎地盤に施したる又は施すべき工法
- (3) コンクリート堰堤基礎地盤に於ける斷層又は多龜裂箇處に對する工法

日本國內委員會は上記各論題中次回國際大堰堤會議の論題となす價值あり且日本國內に於て研究を必要とする問題に就て豫備的調査研究を進むる爲、第2回大堰堤會議研究論題調査専門小委員會を設け最近これを5分科會としそれ等の調査研究を開始して居る。

第2回 大堰堤會議研究論題調査専門小委員會分科會

第1分科會 既設大堰堤の安全度の探査方法

擔任委員 主査 内務技師 萩原俊一
 選信技師 野口寅之助 農林技師 杉浦 翠 内務技師 高田 昭

第2分科會 土堰堤々體の漏水に依る危険防止方法並に土堰堤及びコンクリート堰堤の基礎地盤に對する工法

擔任委員 主査 日本國內委員會委員長 中川 吉 造
 日本國內委員會副委員長 物 部 長 穂 東京市技師 小 野 基 樹
 工 務 部 長 農 林 技 師 杉 浦 翠(前出) 内務技師 高 田 昭(前出)
 鐵 道 技 師 廣 田 孝 一 鐵道技師 平 山 復 二 郎
 關東電力電氣株式會社 鶴 田 勝 三 日本電力株式會社 石 井 顯 一 郎
 東京電機株式會社 技 術 顧問 工 學 部 長 神 原 信 一 郎

第3分科會 土堰堤の安定度の算定

擔任委員	内務技師 物部長 穂(前出)	東京帝國大學教授 工學博士 山口 昇
	東京電燈株式會社 技術顧問 工學博士 神原信一郎(前出)	東京市技師 小野基樹(前出)
	農林技師 杉浦 翠(前出)	

第4分科會 堰堤基礎地盤の地質工學的研究

擔任委員	東京電燈株式會社 技術顧問 工學博士 神原信一郎(前出)	内務技師 高田 昭(前出)
	鐵道技師 廣田孝一(前出)	

第5分科會 堰堤築造用特殊セメントの研究

擔任委員 主査	瀧野セメント株式會社 理事 藤井光藏	
	東京工業大學教授 工學博士 近藤清治	東京帝國大學教授 工學博士 永井彰一郎
	内務技師 宮本武之輔	鐵道省囑託 山本信行
	逓信技師 野口寅之助(前出)	日本電力株式會社 技師 石井颯一郎(前出)

現在までの情勢に依れば第2回國際大堰堤會議は昭和11年北米合衆國に於て世界動力會議と併行して開催せらるゝ豫定なるにより、その論文の作製完了及び提出は前刷作製等の關係上遅くも昭和10年末なるを要する。而して我國としては土地遠隔通信不便等の爲、右論文は向後1年間に脱稿せしむる豫定で折角努力中である。

(昭和9年7月30日記)

三朝橋架換工事概要

會員 工學士 三宅發造*

1. 工事箇所名

位置：鳥取縣東伯郡三朝村字三朝
路線名：府縣道鹿野倉吉線
河川名：三徳川

2. 計畫概要、工事狀況

本橋はラヂウム含有量多きこと東洋第一と稱せらるゝ三朝温泉場の中央にありて三朝川に架せられたものである。三朝温泉は三徳川の清流の兩岸より點々湧出し、兩岸には温泉旅館ありて川の眺めを恣にし附近の松山亦川にせまりて天然美に恵れたる所である。これより三徳川に沿ふて上ること約8km 役行者の開山にかゝる山岳佛寺のある靈山三徳山と溪谷美の勝景小鹿溪とがあり。夫々特別保護建造物、並びに史蹟天然紀念物に指定せられ、これ等を訪ふ人亦少くない。この三朝温泉の中央に位する本橋は産業交通上の見地のみならずこれ等遊覽の人士に對することも顧慮して橋梁の外觀に就ては特に考慮を拂つた。

橋梁の様式は附近の風景名所舊跡と調和を圖るため優雅な日本式形態を具備せる永久構造を選び、擬寶珠付千鳥高欄に春日燈籠を設けたる木造形鐵筋コンクリート橋とした。

* 鳥取縣土木課長